

地方創生関連交付金等事業評価シート

資料6-1

事業名	新商店街におけるにぎわい創出事業		事業期間	平成29年度～令和元年度					
			所管課	商工労働室					
交付金事業の概要	<p>○地域経済の活性化、集客力の向上、観光地等誘致施設の創出に向けた取り組みとして、商店街向けにインバウンド対応セミナーを実施するほか、イルミネーションや街バル等のイベントを開催し、情報発信のためのホームページやアプリの制作を行う。</p> <p>○地域コミュニティの創出に向けて、商店街を中心に市内小中学生等とともに緑化活動を行う。</p> <p>○商店街を引っ張っていくリーダーを育成するためのセミナーやフォーラムを開催し、人材育成及び商店街組織の強化を図る。</p>								
事業の背景及び目的	<p>○ホテルルートイン和泉の開業などにより訪日外国人が増加する中、和泉中央線を軸にした新商店街「木楽座ストリート」が結成された。</p> <p>○商店街や小規模・個人経営者を育成、振興することにより、インバウンドや交流人口の拡大を図り、地域経済の活性化、ひいては、沿道全体のブランド化、エリア価値の向上を目指す。</p>								
予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	報償費	480,000	役務費	20,000		報償費	255,490	役務費	0
	消耗品費	43,000	使用料	85,000		消耗品費	32,928	使用料	74,200
	食料費	2,000	負担金	15,335,000		食料費	123	負担金	11,593,815
	印刷製本費	200,000				印刷製本費	39,312		
	計		16,165,000			計		11,995,868	
平成30年度の取組	取組①名称：まちなぎわい創出								
	取組の内容	<p>○商業者向けにインバウンド対策セミナーを開催した。</p> <p>・開催回数：2回 参加人数：49人</p>			取組の意図・目的	<p>○接客術等のノウハウを商業者に伝え、訪日外国人の来訪を促進する。</p> <p>○イベントの開催等により、まちなぎわいを創出し、新商店街「木楽座ストリート」の認知度向上を図る。</p>			
		<p>○新商店街の賑わいを創出する各種イベントを開催した。</p> <p><イベント内容></p> <p>・街バル</p> <p>・和泉中央線沿道でのイルミネーション</p> <p>・子どもコンサート</p> <p>・昼市夜市及び特産品を活用した体験型イベント(さをり織り体験等)の開催</p>				取組の実績・成果	<p>○接客の仕方やキャッシュレスへの対応など、商業者のインバウンド対応を推進することができた。</p> <p>○街バルは、60店舗(前年度比+25店舗)が参加し、盛況であった。</p> <p>○イルミネーション実施により、木楽座ストリーートの認知度を上げることができた。</p>		
取組②名称：スマートフォン向けアプリの運用									
取組の内容	<p>○平成29年度に制作したスマートフォン向けアプリを活用し、木楽座ストリーートのイベント案内や店舗情報等を発信した。</p> <p>・アプリでは、昨年度と同様に、QRコードを読み込むと、ガチャができる仕組み(※)を実施した。</p> <p>(※)店舗で配布しているQRコードを読みこむことで、店舗で使用できるクーポン等が当たる。</p>			取組の意図・目的	<p>店舗やイベント情報を広く発信し、商店街エリアへの集客力向上を図る。</p>				
				取組の実績・成果	<p>○アプリダウンロード数 1,050件</p> <p>○QRコード読込数 538件</p> <p>フリーQR(※1日1回のがチャ分):1,938件</p>				

取組③名称：人材の育成					
取組の内容	<p>○和泉市の主催で、商店街の人材を育成するためのフォーラムやセミナーを開催した。 <人材育成フォーラム> テーマ: 増え続ける訪日旅行者を狙おう！インバウンド需要を活かした商店街活性化について 参加者数: 110人 <人材育成セミナー> 内容: 先進地(滋賀県大津市 堅田商業連合協同組合)への視察及び現地商店街組合員によるセミナー開催 1部 朝市の運営方法について 2部 店舗が点在している場合の商店街活性化策について 参加人数: 15人</p>	取組の意図・目的	<p>○商店街の店主等を対象にセミナーやフォーラムを開催し、商店街を引っ張っていくリーダーを育成する。</p>		
		取組の実績・成果	<p>○インバウンド客の取り込みの重要性を学び、今後の商店街への誘客に必要なものは何かを考えるきっかけづくりができた。 ○店舗が点在する広域的な商店街において、商店街の商品を1カ所に持ち寄り販売する「朝市」や商品をセリ形式で販売する「まちセリ」の実施により、商店街の賑わいや魅了創出につながっている先進的な事例を学ぶことができた。</p>		
KPI (重要業績評価指標)	交付金対象事業	KPI①： 他府県からの来訪者数			
		現状値 (平成28年度)	目標値 (平成30年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (令和元年度)
		-	15,000	950	27,000
		KPI②： 新規創業件数(件)			
		現状値 (平成28年度)	目標値 (平成30年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (令和元年度)
		-	5	5	10
		KPI③： 平成28年度対比のインバウンド買物客数が向上した店舗数			
現状値 (平成28年度)	目標値 (平成30年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (令和元年度)		
-	13	1	28		
総合戦略における位置付け	基本目標	市内の商工業に活力があると感じる市民の割合			
	数値目標	H25 19.3% → R1 25.0%			
所管課の評価	平成30年度における取組の効果	B 効果的だった	<p>○イルミネーション事業については、昨年度から継続して実施し、市民や商業者から問合せがあるなど、「木楽座ストリート」の更なる認知度の向上に寄与した。 ○街バルについては、木楽座ストリート組合が率先して参加店舗を募り、参加店舗が増加することで、更なる賑わいの創出につながった。 ○アプリについては、ダウンロード数が前年度より増加(前年度比約40%増)した。 ○インバウンド対策セミナーや人材育成フォーラムの開催により、木楽座ストリート組合が自主的にインバウンドを取り込む施策を検討しはじめなど、インバウンドに対する意識や自主運営についての認識が高まった。 ○人材育成セミナーでは、店舗が点在する広域的な商店街における活性化事例を学ぶことができ、今後の商店街活性化の取組を検討するにあたっての参考となった。</p>		
	目標値達成状況にかける要因分析	3 未達成	<p>○イルミネーションや街バル等の取組については2年目を迎え、商店街の存在が地域に定着しつつあり、商店街の認知度向上が、新規創業件数の増加の好循環につながった。 ○市内においては、商店街の認知度は向上しているものの、周知不足もあり、他府県からの来訪者数の増加に結びつかなかった。 ○インバウンド対策セミナーや人材育成フォーラムの開催により、商店街関係者のインバウンド対応に係る理解を深めることはできたが、商店街において、セミナーの等の内容を実践するまでに至らず、インバウンド買物客数の向上には至らなかった。</p>		

交付金事業における各取組の総括(商工労働室)

まちの賑わい創出

取組年度	取組の内容	取組の実績	取組による成果	取組の課題や反省点
平成29年度	<p>○商業者向けにインバウンド対策セミナーを開催した。(全3回)</p> <p>○新商店街の賑わいを創出する各種イベントを開催した。 <イベント内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・街バル ・和泉中央線沿道でのイルミネーション ・キッズダンスフェスティバル・子供コンサート ・特産品を活用した体験型イベント(さをり織り体験等) 	<p>○インバウンドの接客方法や免税店の登録方法等を内容としたセミナーを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数:3回、参加人数:142人 <p>○街バルは、35店舗が参加し、バルチケット 180万円の売り上げであった。</p>	<p>○セミナーに、想定を超える参加があり、商店のインバウンドに対する意識の高さが伺えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定参加者数(全3回)120人 ○街バル開催後に、木楽座ストリート組合への加入が増加した。(10店舗) ○イルミネーションの実施により、木楽座ストリートの認知度を上げることができた。 	<p>○商店街関係者のインバウンド対応に係る理解を深めることはできたが、インバウンドが増加していないことから、商店街において、セミナーの内容を実践するまでに至っていない。</p>
平成30年度	<p>○商業者向けにインバウンド対策セミナーを開催した。(全2回)</p> <p>○新商店街の賑わいを創出する各種イベントを開催した。 <イベント内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・街バル ・和泉中央線沿道でのイルミネーション ・子どもコンサート ・昼市夜市及び特産品を活用した体験型イベント(さをり織り体験等)の開催 	<p>○インバウンドの接客方法やキャッシュレスへの対応などを内容としたセミナーを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数:2回、参加人数:49人 <p>○街バルは、60店舗(前年度比+25店舗)が参加し、140万円の売り上げであった。</p>	<p>○木楽座ストリート組合が自主的にインバウンドを取り込む施策を検討しはじめるなど、インバウンドに対する意識が高まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○街バルは、前年度より参加店舗が増加し、まちの賑わい創出や木楽座ストリートの認知度向上につながった。 ○イルミネーション実施により、木楽座ストリートの認知度を上げることができた。 	<p>○各商店や商店街だけの取組みでインバウンドを増加させることは困難なため、府や泉州地域など広域的な取組みと連携した事業展開をしていく必要がある。</p>
令和元年度	<p>○木楽座ストリート沿道の街路樹等にイルミネーション設置し、集客力の向上や商店の売り上げ増加を図る。 (補助金 4,000千円)</p> <p>○イルミネーション設置に合わせ、中高年層の誘客のため、本市特産(いずみパール、いずみ硝子)を活用したアクセサリー作り体験や、さをり織りなどの体験型イベントを開催する。 (補助金 319千円)</p>	-	-	-

ホームページ及びスマートフォン向けアプリの制作・運用

取組年度	取組の内容	取組の実績	取組による成果	取組の課題や反省点
平成29年度	○木楽座ストリートのホームページ及びスマートフォン向けアプリを作成し、イベントや店舗情報等を掲載した。 ・アプリは、QRコードの読み込みでガチャができる仕組み(※)を導入した。 (※)店舗のQRコードを読み、クーポン等が当選する。	○アプリダウンロード数 743件 ○QRコード読込数 店内:3,987件、店外:346件 フリーQR(※1日1回のみガチャ分): 2,095件	○アプリによるイベントなどの情報発信が可能になった。	○アプリの周知が不足し、ダウンロード数を伸ばすことができなかった。
平成30年度	○平成29年度に制作したスマートフォン向けアプリを活用し、木楽座ストリートのイベント案内や店舗情報等を発信した。 ※平成29年度と同様に、QRコードを読み込むとガチャが出来る仕組みを実施した。	○アプリダウンロード数 1,050件 ○QRコード読込数 538件 フリーQR(※1日1回のみガチャ分): 1,938件	○アプリについては、ダウンロード数が前年度より増加(前年度比約40%増)し、より広く情報発信を行うことができるようになった。	○ダウンロード数は少しずつ増えているものの、十分ではないため、「木楽座ストリート」の周知を推進するとともに、アプリをダウンロードしてもらうための案内チラシやフライヤー、SNS等を活用したアプリの周知に取り組む必要がある。
令和元年度	○商店街が自ら情報発信するツールとして、スマートフォン向けアプリの運用経費を補助する。 (補助金 1,200千円)	-	-	-

地域コミュニティの創出

取組年度	取組の内容	取組の実績	取組による成果	取組の課題や反省点
平成29年度	○木楽座ストリート沿道の清掃を実施した。 ○木楽座ストリート会員や児童、保護者等が協力し、花で街を彩る緑化活動の企画「みなはつフラワープロジェクト」を実施した。	○地域の方を巻き込んだ清掃活動や緑化活動を実施した。 <清掃活動> 実施回数1回、参加者数36名 <みなはつフラワープロジェクト> ・参加者数:児童15名、保護者15名、他22名	○清掃活動や緑化活動を地域住民の方々と一緒に実施することで、木楽座ストリートの存在を浸透させることができた。	○イルミネーション事業については、地域住民の認知度が高かったが、「木楽座ストリート」については、認知度が低かったことが分かった。イルミネーションとともに木楽座ストリートについて更なる周知が必要である。 ○継続的な取組みとなるように、引き続き、組合員や地元住民への働きかけが必要である。
令和元年度	【交付金事業以外の取組み】 ○地元小中学校と協働し、和泉中央線沿道やその周辺地域の緑化活動等の実施に取り組む。 ○七夕の季節にイルミネーションの点灯を行い、市内の保育園児や小学生等の願い事などを書いた短冊を吊るした笹を木楽座店舗に設置することで、父兄等の来店促進を図る。	-	-	-

人材育成

取組年度	取組の内容	取組の実績	取組による成果	取組の課題や反省点
平成29年度	○和泉市の主催で、新商店街の店主等を対象に、商店街の人材を育成するためのフォーラムやセミナーを開催した。	<p><人材育成フォーラム> 講演内容:「隠れた地域資源を発掘し、皆を巻き込むまちづくり」等 参加者数:101人 <人材育成セミナー> テーマ:商店街の次世代リーダーを発掘・育成 参加者数:延べ68人</p>	○地域の方々から必要とされる商店街になるためには、何が必要で、何ができるかを考えるきっかけにすることができた。 ○セミナー参加者同士で連帯感が生まれ、連携して商店街を引っ張っていく人材を発掘・育成することができた。	○人材育成セミナーは座学形式で実施したが、より実践的な参加型形式による開催も検討すべきだった。
平成30年度	○和泉市の主催で、商店街の人材を育成するためのフォーラムやセミナーを開催した。	<p><人材育成フォーラム> テーマ:増え続ける訪日旅行者を狙おう！インバウンド需要を活かした商店街活性化について 参加者数:110人 <人材育成セミナー> 内容:先進地(滋賀県大津市 堅田商業連合協同組合)への視察及び現地商店街組合員によるセミナー開催 1部 朝市の運営方法について 2部 店舗が点在している場合の商店街活性化策について 参加人数:15人</p>	○インバウンド客の取り込みの重要性を学び、今後の商店街への誘客に必要なものは何かを考えるきっかけづくりができた。 ○店舗が点在する広域的な商店街において、商店街の商品を1カ所に持ち寄り販売する「朝市」や商品をセリ形式で販売する「まちセリ」の実施により、商店街の賑わいや魅了創出につながっている先進的な事例を学ぶことができた。	○人材育成セミナーは、平成29年度の課題等を踏まえ、現地視察を取り入れ、視察先組合員の生の声を聞くことができた。 ○当該地域は高齢化が進んでおり、「朝市」は遠方に外出が困難な地域住民に重宝されていた。本市においても、地域住民の高齢化が進んでいることから、今後の商店街運営の検討の参考としたい。

その他の取組み

取組年度	取組の内容	取組の実績	取組による成果	取組の課題や反省点
令和元年度	<p>【交付金事業以外の取組み】</p> <p>○市場調査の実施 (目的) 地域再生計画における「地方創生として目指す将来像」にかかる取組の実施状況等を把握・検証し、交付金事業実施による地域活性化を主とした今後の市内商業活動の方向性を探る。 (実施時期) 平成31年4月～12月 (調査内容) ・商店街における現地踏査など 商店街の「地方創生として目指す将来像」にかかる活動状況、組合員による取組ニーズや課題などを把握するため、現地調査や組合員アンケート調査、各事業の先導役などキーパーソン等のヒアリング(7～8件程度)を実施する。 ・市場調査 ニーズ把握のため、商店街の利用客を対象に、イルミネーションやまちバルなど各種イベント開催時に市場調査を行う。(サンプル数200程度) (予算) 業務委託料 2,400千円</p>	-	-	-

交付金事業の総括

KPIの達成状況を踏まえた取組の総括	<p>○街バルやイルミネーションの実施により、木楽座ストリートの認知度向上や賑わい創出につながり、KPI②(新規創業件数)の目標を達成する好循環を生み出すことができた。</p> <p>○KPI③(平成28年度対比のインバウンド買物客数が向上した店舗数)は、未達成に終わった。インバウンドセミナーやインバウンドの取り込みに向けた人材育成フォーラムを実施し、商店街のインバウンド受入態勢の構築には一定の効果があったが、各商店や商店街だけの取組みでインバウンドを増加させること自体が困難であり、広域的な連携によるインバウンドの取組み等について、検討する必要がある。</p>
交付金事業の成果を踏まえた今後の事業展開	<p>○街バルやセミナーの開催など、組合員の自主的な企画・運営は少しずつ増加していることから、今年度実施するイルミネーション事業をメインに、木楽座ストリートの更なる周知に努め、持続的に発展できる自立した商店街の実現に向けた支援を行う。</p> <p>○商店街における情報発信が不十分である点や他府県からの来訪者数が低調に終わっている点を踏まえ、今後も、市のホームページや広報等の媒体を活用し、商店街の取組みに係る積極的な情報発信を行っていく。</p> <p>○交付金事業終了後も、商店街自らが、持続的に発展できる自立した組合運営が出来る仕組みづくりに取り組む。</p>